

令和4年度 放課後活動指導者研修② 実施報告

実施日：令和4年6月1日（水）

◎当研修は、子どもたちが地域社会の中で、安全に、心豊かに育まれる環境づくりを推進している放課後子ども教室や放課後児童クラブ関係者の資質向上を図るための研修です。第2回もオンラインで実施し、58名が参加しました。

○ 講話「子どもを理解しよう～子どもの発達に応じた大人のかかわり方～」

宇都宮共和大学 子ども生活学部 教授 土沢 薫 氏



土沢先生は、発達心理学、発達臨床心理学が御専門で、宇都宮市教育センター相談員、乳幼児健診心理相談員等を歴任され、現在、宇都宮共和大学に勤務されております。また、栃木県スクールカウンセラー、栃木県障害者差別解消推進委員会委員、栃木県公認心理師協会理事など本県の様々な分野でも御活躍中です。

今回の講話では、はじめに、発達は「できるようになること」、「できることが増えること」だけではなく、消失・逆行なども含み、生きる中で生じてくる心身の変化の過程であると説明がありました。また、子どもは前向きにチャレンジする力を秘めており、よりよい子どもの発達のためには、子どもたちが良質な経験を積み、その子なりの力を発揮できるよう、大人のかかわりが重要であると強調されていました。

次に、子どもの年齢ごとの特徴、支援者に望まれる対応方法を確認後、子どもの問題行動の場面が示され、どのような支援が必要かを考えました。さらに、子どもが危険行為を行い、指導者がどうしても叱る必要があるときは、「取り上げる事象を1つのことに絞る」、「伝える内容は何がいけないのか、どうしたらよいのかの二つにする」、「最長でも30秒までとする」など、具体的な子どもへの接し方が示されました。ふりかえりの中で、受講者は、日頃の子どもへの接し方を見直し、工夫して取り組みたいことについて話し合うなど、今後の活動への意欲を高めていました。

★ 受講者の声 ★

- ・ 自分でよかれと思って子どもにかかわったことが、その子にとって本当にためになっていたのか、もう一度考え直すきっかけになりました。
- ・ どうしても、集団の中で決まりが守れなかったり、足並みを揃えられなかったり、そういうところに目が向いてしまいがちですが、今回かなり具体的な例とともに、個性や集中力を伸ばす方法、できているところに目を向ける方法を知ることができて良かったです。
- ・ 実践場面で考えることによって、児童への対応の参考となりました。共感する気持ちが大切だと改めて分かりました。学童は児童が過ごす時間が長ければ長いほど児童の基礎づくりに携わる大事な場所だということと、大人が支えることの必要性を感じました。

研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで

TEL:028-665-7206

e-mail: skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp